

教員氏名	筒木 潔 (つつき きよし)	職名	教授
所 属	地域環境学研究部門	植物生産学分野	
主に担当する教育ユニット			
畜産科学課程		環境農学ユニット	
専門分野および主な研究テーマ			
<p>土壌有機物に関する研究（自然土壌、農耕地土壌、泥炭、水圏を含む）</p> <p>土壌に施用される有機物に関する研究（堆肥、液肥、スラリー、緑肥など）</p> <p>食土に関する研究、土壌教育のあり方について</p>			
卒業研究として指導可能なテーマ・領域			
平成28年度をもって退職しますので、卒論のテーマはありません。			
自己紹介と学生へのメッセージ			
<p>土壌は陸上における炭素、窒素、リン酸の最大の貯蔵庫であり、微生物、植物、動物、人間の生命活動を支えています。土壌中に蓄えられた炭素、窒素、リンの量は、炭素に関しては全バイオマスの2～3倍、窒素に関しては約20倍、リンに至っては60倍にもおよびます。</p> <p>しかし、農耕、土壌劣化、地球温暖化、砂漠化などの影響で、陸地表面を覆う肥沃な表土と土壌有機物の消耗が急速に進行しています。特に数千年の時間をかけて蓄積した土壌有機物が数十年の間に人間活動の影響で失われています。</p> <p>私の好きな言葉に、アメリカ先住民「ホピ族」の言い伝えがあります。「私たちが住んでいるこの土地は、先祖から受け継いだものであると同時に、子孫から借りているものでもある。だから傷つけないで子孫に受け継ぐのだ。」</p> <p>私たちはこの言葉を肝に銘じて土壌劣化・土壌有機物の消耗に歯止めをかけなくてはなりません。</p> <p>もうひとつ、お伝えしたいことがあります。私の専門は「腐植(Humus)」ですが、Humus と人間(Human) と水分(Humidity) という言葉は語源が同じだったのです。土と腐植は生命をはぐくみ、そして生命を受け入れるものです。私たちの祖先は、「人」と「土(腐植)」と「水」の深い関係を当然のこととして感じていたのです。</p> <p>「土」という漢字は、土から植物が芽生えてくる様子を表したものだそう</p>			

です。また、「生」という漢字をよく見ると、「人」と「土」が組み合わされた字のように見えませんか？私はそのことに気づき、「人は土に生きる」というポスターを書いて、実験室の扉に貼りました。研究室の中と外には、多くの畜大圃場の土壌断面標本を展示してありますので、見てください。

私個人のホームページを作成しています。過去と現在のさまざまな講義の内容も載せていますので、是非見てください。

研究室	総合研究棟 2号館	1階	106号室
メールアドレス	tsutsuki@obihiro.ac.jp	学内電話	(0155) 49 - 5506
ホームページアドレス :	http://timetraveler.html.xdomain.jp		